

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	橋元 純也、1年生チューター			
授業科目	初年次セミナー I					授業形態
英 訳	First year seminar I					複数
配当年次	1年次	前期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 初年次生を対象に、各学科・総合教育センター・事務部による全学的連携のもと、本大学における学修・生活への円滑な移行を支援する。						
<b>【授業の到達目標】</b> ①本大学構成員間の信頼関係を構築しながら、②本学院の建学の精神や本大学の歴史・教育理念などを理解し、③大学生として、本大学生として、所属学科の学生として、必要な知識・技術を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> まず学科別に授業概要ガイダンスおよびオリエンテーションをおこない、つぎに総合教育センターが担当する合同セミナーに参加する。そして各学科教員による学科セミナーをおこなう。合同セミナー・学科セミナーでは、担当チューターによるホームルームの時間も設定する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 毎回の授業内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b>						
	生産工学科	情報デザイン学科	現代社会学科			
第01回	授業概要ガイダンス	授業概要ガイダンス	授業概要ガイダンス			
第02回	新入生オリエンテーション	新入生オリエンテーション	大学生の学修と生活①			
第03回	大学生の学修と生活①	大学生の学修と生活①	新入生オリエンテーション			
第04回	大学生の学修と生活②	大学生の学修と生活②	個別ゼミ			
第05回	大学生と人権	大学生と人権	大学生と人権			
第06回	中間まとめ	チューターグループ別 体験学習①～⑨  体験グループを4組形成し、情報デザイン学科の4コース(情報技術/デザイン/アート&エンターテインメント/メディア文化)において、各3回ずつ、計12回(前期9回・後期3回)の体験実習を実施する。	大学生の学修と生活②			
第07回	機械工学コースの説明①		教員紹介①			
第08回	機械工学コースの説明②		教員紹介②			
第09回	電気情報コースの説明①		教員紹介③			
第10回	電気情報コースの説明②		喫煙・飲酒対策講習			
第11回	バイオ生産コースの説明①		介護職員初任者研修講座紹介			
第12回	バイオ生産コースの説明②		認知症サポーター養成講座			
第13回	学外学習①		交通安全教育講演会			
第14回	学外学習②		個別ゼミ			
第15回	期末まとめ		期末まとめ	フィールドワーク入門報告会		
<b>【テキスト】</b> テキスト『キャンパス用語集2018年度版』を配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義中に必要に応じて示す。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業への取り組みや提出物の状況・内容などによる平常点(100%)により評価する。						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	橋元 純也、1年生チューター			
授業科目	初年次セミナーⅡ					授業形態
英 訳	First year seminar Ⅱ					複数
配当年次	1年次 後期	必選別	必修	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 初年次生を対象に、各学科・総合教育センター・事務部による全学的連携のもと、本大学における学修・生活への円滑な移行を支援する。						
<b>【授業の到達目標】</b> ①本大学構成員間の信頼関係を構築しながら、②本学院の建学の精神や本大学の歴史・教育理念などを理解し、③大学生として、本大学生として、所属学科の学生として、必要な知識・技術を身につける。						
<b>【授業の概要】</b> まず学科別に授業概要ガイダンスおよびオリエンテーションをおこない、つぎに総合教育センターが担当する合同セミナーに参加する。そして各学科教員による学科セミナーをおこなう。合同セミナー・学科セミナーでは、担当チューターによるホームルームの時間も設定する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 毎回の授業内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b>						
	生産工学科	情報デザイン学科	現代社会学科			
第01回	授業概要ガイダンス	授業概要ガイダンス	授業概要ガイダンス			
第02回	大学生と社会	大学生と社会	大学生と社会			
第03回	高城祭2日目参加	高城祭2日目参加	個別ゼミ			
第04回	キャリアデザイン入門	海田町の歴史と文化	キャリアデザイン入門			
第05回	海田町の歴史と文化	キャリアデザイン入門	SPI とは何か①			
第06回	SPI とは何か①	SPI とは何か①	SPI とは何か②			
第07回	SPI とは何か②	SPI とは何か②	特別キャンパス活動案内			
第08回	特別キャンパス活動案内	特別キャンパス活動案内	海外・異文化体験			
第09回	海外・異文化体験	海外・異文化体験	個別ゼミ			
第10回	中間まとめ	チューターグループ別 体験学習⑩～⑫	個別ゼミ			
第11回	機械工学コースの説明③		性感染症講演会			
第12回	電気情報コースの説明③		瀬野川の自然			
第13回	バイオ生産コースの説明③	情報デザイン講演会	個別ゼミ			
第14回	学外学習	美術館見学	個別ゼミ			
第15回	期末まとめ	期末まとめ	社会福祉士相談援助実習報告会			
<b>【テキスト】</b> テキスト『キャンパス用語集2018年度版』を配布する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義中に必要に応じて示す。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業への取り組みや提出物の状況・内容などによる平常点(100%)により評価する。						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	橋元 純也			
授業科目	コミュニケーション I					授業形態
英 訳	Communication I					単独 クラス分け
配当年次	1年次	前期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 日本語の用字・用語・表現技術といった諸相を理解したうえで、おもに文章表現によるコミュニケーションの実践経験をつみ、学士力を基底からささえる基礎学力としての日本語コミュニケーション能力を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> 適切な用字・用語・表現技術によって、論旨の明快な文章を作成できる。 ※作成文章の評価はすべてルーブリック（評価基準表）をもちいておこなう ※科目「コミュニケーション I」ルーブリック（ <a href="http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-com1">http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-com1</a> ）参照						
<b>【授業の概要】</b> 第1～5回で日本語の用字を理解しながら日本語の表現技術をまなび、第6～10回で日本語の用語を理解しながら作文や履歴書作成による自己を見つめた文章表現を実践し、第11～15回で論説文の読解と作成による社会を見つめた文章表現、および通信文の表現を実践する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 毎回配布する講義プリントの内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 講義概要ガイダンス / 日本語の用字①かなづかいの原則と例外 第02回 日本語の用字②送りがなの原則と例外 / 日本語の表現技術①文章を書く前に（手順） 第03回 日本語の用字③日本漢字の歴史 / 日本語の表現技術②文章を書く前に（構成） 第04回 日本語の用字④日本漢字の特徴 / 日本語の表現技術③文章を書いた後のチェック項目 第05回 日本語の用字⑤日本漢字の留意点 / 1/3 まとめ・確認テスト・ふりかえり 第06回 日本語の用語①同意語・反意語 / 自己を見つめた文章表現①下書き 第07回 日本語の用語②ことわざ・慣用句 / 自己を見つめた文章表現②作成 第08回 日本語の用語③外来語・漢字の割合 / 自己を見つめた文章表現③履歴書の実事関係欄 第09回 日本語の用語④重複表現 / 自己を見つめた文章表現④履歴書の自己アピール欄 第10回 日本語の用語⑤ / 2/3 まとめ・確認テスト・ふりかえり 第11回 論説文の読解①論証の形式 / 社会を見つめた文章表現①下書き 第12回 論説文の読解②論証図作成 / 社会を見つめた文章表現②作成 第13回 論説文の読解③論証の分析 / 社会を見つめた文章表現③推敲 第14回 論説文の読解④導出の区別 / 通信文の表現 第15回 3/3 まとめ・確認テスト・ふりかえり / 総合質問受付						
<b>【テキスト】</b> 指定教科書なし。毎回、担当者がプリント資料を作成し、テキストとして配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義中に必要に応じて示す。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 毎回の提出物の状況・内容（40%）と第5・10・15回目実施の確認テストの結果（60%）とを総合して評価する。						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	橋元 純也			
授業科目	コミュニケーションⅡ					授業形態
英 訳	Communication II					単独 クラス分け
配当年次	1年次	後期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 口頭表現の特徴・基礎・技術・モラルといった諸相を理解したうえで、おもに口頭表現によるコミュニケーションの実践経験をつみ、学士力を基底からささえる基礎学力としての日本語コミュニケーション能力を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> 口頭表現について適切な基礎知識・技術・モラルを身につけ、場面に応じた原稿作成と実践ができる。 ※口頭表現の原稿・実践の評価はすべてルーブリック（評価基準表）をもちいておこなう ※科目「コミュニケーションⅡ」ルーブリック（ <a href="http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-com2">http://www.hkg.ac.jp/~hashimoto/blog/rubrics-com2</a> ）参照						
<b>【授業の概要】</b> 第1～5回で口頭表現の特徴・基礎・技術といった諸相を理解しながら自己紹介原稿を作成し、第6～10回で尊敬語・謙譲語といった口頭表現のモラルをまなびながら自己アピール原稿を作成し、第11～15回で丁寧語・美化語といった口頭表現のモラルをまなびながらスピーチ原稿を作成する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 毎回配布する講義プリントの内容を理解・整理しておき、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 講義概要ガイダンス / 口頭表現の特徴 第02回 口頭表現の基礎 / 面接対話における自己紹介①基礎的材料 第03回 口頭表現の技術①準備段階 / 面接対話における自己紹介②発展的材料 第04回 口頭表現の技術②実践段階 / 面接対話における自己紹介③原稿作成 第05回 口頭表現の技術③個別対話 / 1/3 まとめ・確認テスト・ふりかえり 第06回 口頭表現のモラル①尊敬語前半 / 面接対話における自己アピール①面接とは何か 第07回 口頭表現のモラル②尊敬語後半 / 面接対話における自己アピール②面接への対応 第08回 口頭表現のモラル③謙譲語前半 / 面接対話における自己アピール③質問の4分類 第09回 口頭表現のモラル④謙譲語後半 / 面接対話における自己アピール④質問への対応 第10回 面接対話における自己アピール⑤原稿作成 / 2/3 まとめ・確認テスト・ふりかえり 第11回 口頭表現のモラル⑤丁寧語前半 / セレモニーにおけるスピーチ①原稿作成前半 第12回 口頭表現のモラル⑥丁寧語後半 / セレモニーにおけるスピーチ②原稿作成後半 第13回 口頭表現のモラル⑦美化語 / セレモニーにおけるスピーチ③話し方 第14回 電話による改まった会話 / セレモニーにおけるスピーチ④態度 第15回 3/3 まとめ・確認テスト・ふりかえり / 総合質問受付						
<b>【テキスト】</b> 指定教科書なし。毎回、担当者がプリント資料を作成し、テキストとして配付する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 講義中に必要に応じて示す。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 毎回の提出物の状況・内容（40%）と第5・10・15回目実施の確認テストの結果（60%）とを総合して評価する。						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	テナント、ヒギンボサム 吉本 由美、平瀬 洋子			
授業科目	英語 I					授業形態
英 訳	English I					単独 クラス分け
配当年次	1年次 前期	必選別	必修	単位数	1単位	
<b>【授業の目的】</b> 英語は今やGlobish（グローバル英語）と呼ばれ、グローバル化が進む中、世界共通言語として認識されている。そのトレンドの中、本学の学生も例外ではなく、英語の4つの技能を多少なりとも習得させることが高等教育機関の義務であり、それがこのクラスの最大の目的である。加えて、英語Iの目的として、1) 反復練習でレベルにあった基礎を教え、2) 応用練習で英語II以降のクラスにつなげていく。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 基本的な英文法を理解して、頻度の高い単語が使えるようになること。 2. やさしい英語の本が速く読めて、内容が理解できるようになること。						
<b>【授業の概要】</b> 読む・聴く・書く・話すの4技能を出来るだけ均等に総合的なバランスの取れた英語力の養成を目標にしたクラスである。レベルによって4技能に置かれるウエイトはそれぞれ異なるが、英語Iでは、それらのレベルに相応したテキストや教授法を用いて、英語II～IVへつなげていける4技能の基盤を、様々な練習を通して構築していくクラスである。また、英語の背景にある文化に関する知識習得も期待される。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 予習：課題をやること。 復習：前回の授業内容が理解できているか、確認すること。多読は締切日までに目標を達成すること。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 授業の概要と進め方 Introductions / Classroom English / Course Outline 第02回 Talking about People ① ; introduction to Moodle and Extensive Reading (多読) 第03回 Talking about People ② ; introduction to High Frequency Vocabulary study 第04回 Talking about People ③ 第05回 Talking about People ④ 第06回 Talking about Work and Leisure ① 第07回 Talking about Work and Leisure ② 第08回 Talking about Work and Leisure ③ ; 多読の締め切り 1回目 第09回 Talking about Work and Leisure ④ 第10回 Review (復習のレッスン) 第11回 Talking about Travel / Houses ① 第12回 Talking about Travel / Houses ② 第13回 Talking about Travel / Houses ③ 第14回 Talking about Travel / Houses ④ 第15回 Semester review (前期の復習) ; 多読の締め切り 2回目 期末試験						
<b>【テキスト】</b> 工学部a b・情報文化学部abc : 『World English 1A 2nd. Ed.』 (Martin Milner著 センゲージラーニング社) 工学部c・情報文化学部d : 『World English Intro A 2nd. Ed.』 (Martin Milner著 センゲージラーニング社)						
<b>【参考書・参考資料等】</b> オンライン学習 moodle.hkg.ac.jp → English Iのコース、その他 quizlet.com						
<b>【成績評価の方法等】</b> 多読：20%、授業への取り組み：30%、小テスト：10%、期末試験：40%						
<b>【履修要件等】</b> 多読のクイズでパソコンを使用するため、パソコンの簡単な操作ができること。						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	テナント、ヒギンボサム 吉本 由美、平瀬 洋子			
授業科目	英語Ⅱ					授業形態
英 訳	English II					単独 クラス分け
配当年次	1年次 後期	必選別	必修	単位数	1単位	
<b>【授業の目的】</b> 英語は今やGlobish（グローバル英語）と呼ばれ、グローバル化が進む中、世界共通言語として認識されている。そのトレンドの中、本学の学生も例外ではなく、英語の4つの技能を多少なりとも習得させることが高等教育機関の義務であり、それがこのクラスの最大の目的である。加えて、英語Iの目的として、1) 反復練習でレベルにあった基礎を教え、2) 応用練習で英語Ⅱ以降のクラスにつなげていく。						
<b>【授業の到達目標】</b> 前期同様に、文法の基礎をしっかりと学習する。特に、不定詞、動名詞、受動態等の文法事項を学習するので、多読本を前期よりも多く読むこと。また、知らない単語が出て、前後関係から意味を推測できるようになること。						
<b>【授業の概要】</b> 読む・聴く・書く・話すの4技能を出来るだけ均等に総合的なバランスの取れた英語力の養成を目標にしたクラスである。レベルによって4技能に置かれるウエイトはそれぞれ異なるが、英語Ⅱでは、それらのレベルに相応したテキストや教授法を用いて、2年次英語へつなげていける4技能の基盤を、様々な練習を通して構築していくクラスである。また、英語の背景にある文化に関する知識習得も期待される。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 予習：課題をやること。 復習：前回の授業内容が理解できているか、確認すること。多読は締切りまでに目標を達成すること。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 授業の概要と進め方 Introductions / Classroom English / Course Outline 第02回 Talking about Food / Possessions ①; start Moodle and Extensive Reading (多読) 第03回 Talking about Food / Possessions ②; start High Frequency Vocabulary study 第04回 Talking about Food / Possessions ③ 第05回 Talking about Food / Possessions ④ 第06回 Talking about Sports / Transportation ① 第07回 Talking about Sports / Transportation ② 第08回 Talking about Sports / Transportation ③ ; 多読の締切り 1回目 第09回 Talking about Sports / Transportation ④ 第10回 Review (復習のレッスン) 第11回 Talking about Experiences / Transportation ① 第12回 Talking about Experiences / Transportation ② 第13回 Talking about Experiences / Transportation ③ 第14回 Talking about Experiences / Transportation ④ 第15回 Semester review (後期の復習とまとめ) ; 多読の締切り 2回目 期末試験						
<b>【テキスト】</b> 工学部a b・情報文化学部abc：『World English 1A 2nd. Ed.』 (Martin Milner著 センゲージラーニング社) 工学部c・情報文化学部d：『World English Intro A 2nd. Ed.』 (Martin Milner著 センゲージラーニング社)						
<b>【参考書・参考資料等】</b> オンライン学習 moodle.hkg.ac.jp → EnglishⅡのコース、その他 quizlet.com						
<b>【成績評価の方法等】</b> 多読：20%、授業への取り組み：30%、小テスト：10%、期末試験：40%						
<b>【履修要件等】</b> 多読のクイズでパソコンを使用するため、パソコンの簡単な操作ができること。						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	若林 義啓、川崎 千枝見、吉本 由美			
授業科目	情報リテラシー I					授業形態
英 訳	Information Literacy I					単独 クラス分け
配当年次	1年次	前期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b>						
現代の情報社会では、コンピューターは社会人に必須のスキルと言われ、あらゆる職業でコンピューターを活用する能力が求められている。大学での学修でもレポートや研究にコンピューターを使わなければならない。この授業では、大学の学修と社会人に必要とされるコンピュータースキルについて学び、その必要性を理解する。様々な演習を通して情報活用の基礎力を身につけることで、大学の学修や社会に出た後もコンピューターを積極的に活用できるようになる。						
<b>【授業の到達目標】</b>						
1. タッチタイピングを修得する キーボードを見ないで入力するタッチタイピングのメリットを理解する。2分で400タイプできるようになる。						
2. 正しいメールの使い方を修得する 課題提出メールや就職活動でのメールのやりとりで、本文に必要な5つのポイントを修得する。メールのマナーを身につけ、社会に出ても通用する正しいメールが書けるようになる。						
3. レポートの構成を理解し、美しい書式でレポートを作成するスキルを修得する レポートの構成と書式について学び、レポート作成に必要なコンピュータースキルを身につける。実際のレポート作成時に全体の構成を考えることから始めるようになり、文章を入力する作業では素早くコマンドを選択でき、効率的にレポートが作成できるようになる。						
<b>【授業の概要】</b>						
毎回の授業の冒頭でタッチタイピングの練習を行い、中間・最終のテストでタッチタイピングのテストも行う。第1回から第5回まではネット社会の危険や大学生活で必要となるコンピューターとメールの使い方を演習形式で学ぶ。第6回から第11回まではMicrosoft Wordを使い、レポート作成に必要なスキルの修得とレポートの構成を教科書と補助教材で学ぶ。第12回からは実際のレポート作成演習を行い、修得したスキルでレポートを1つ完成させる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
タッチタイピングは授業時間外にも練習しておく。授業中の演習をよく復習し、操作方法を覚えておく。レポート作成演習では、授業前にテーマに合わせた情報を調査し、資料収集等の準備を行っておく。						
<b>【授業計画】</b>						
第01回 情報リテラシーとは、大学でのコンピューター利用						
第02回 タッチタイピング、メールの設定						
第03回 インターネットとは、メールのマナー						
第04回 情報機器、ネットモラル						
第05回 ファイルとフォルダ、フリーソフト						
第06回 メールのエラー、日本語変換ソフト						
第07回 Microsoft Word 基本操作						
第08回 タッチタイピング修得状況とネット社会のモラルとマナーについての確認および中間確認テスト						
第09回 レポートの書き方1 図表の挿入とキャプション						
第10回 レポートの書き方2 書式、段組み、印刷						
第11回 レポートの書き方3 PDF ファイル、見出しスタイル、数式						
第12回 レポートの書き方4 レポートの構成、レポート作成演習1 第1段落の書き方						
第13回 レポート作成演習2 第2・第3段落の書き方、文体						
第14回 レポート作成演習3 考察の書き方、文章の校正						
第15回 タッチタイピング修得状況とレポート作成スキルの確認および最終確認テスト、まとめ						
<b>【テキスト】</b>						
「情報リテラシー改訂版」FOM出版						
<b>【参考書・参考資料等】</b>						

【成績評価の方法等】

課題 (30%) 及び中間・最終確認テスト (70%)

【履修要件等】



区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	若林 義啓、川崎 千枝見、吉本 由美			
授業科目	情報リテラシーⅡ				授業形態	
英 訳	Information Literacy Ⅱ				単独 クラス分け	
配当年次	1年次	後期	必選別	必修	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> 現代の情報社会では、コンピューターは社会人に必須のスキルと言われ、あらゆる職業でコンピューターを使って、情報を分析し、伝達する能力が求められている。大学での学修でも実験レポートや研究にコンピューターを使わなければならない。この授業では、大学の学修と社会人に必要とされるコンピューターを使った情報処理の基礎と情報伝達の知識を学び、その活用法を身につける。演習を通して情報処理と情報伝達の基礎力を身につけることで、大学の学修や社会に出た後もコンピューターを積極的に活用できるようになる。						
<b>【授業の到達目標】</b> 1. スライドの効果的なデザイン法を修得する スライド作成におけるデザインの4原則と文字や画像の見せ方を学び、情報の伝え方について理解することで、情報を効果的に伝えることが可能なスライドを作成できるようになる。 2. 表計算ソフトの基礎的な活用法を修得する 表計算ソフトの活用場面を学び、必要なコンピュータースキルを身につける。関数の基礎と応用力、データベースとしての活用法、レポートや研究で求められるグラフの作成法を学び、実際の実験や研究の場面で適切な方法を選択して分析・考察を行い、効率的に問題解決できるようになる。						
<b>【授業の概要】</b> 第1回から第3回まではPowerPointを使い、デザインの原則と情報の伝え方について学び、第4回に任意のテーマで実際にスライドを完成させる。第5回からはExcelを使い、教科書と補助教材を用いた演習で表計算分野では数式の作り方、関数の使い方、データベース分野ではデータの抽出、データの強調表示、グラフ作成分野では正しいグラフの選び方と学術研究用のグラフの描き方等を学ぶ。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> PowerPointのスライド作成では、授業前にテーマに関する情報を調査し、授業外の時間を使ってスライドを完成させること。Excelでは授業中の演習をよく復習し、場面に合わせて方法を選択し、活用できるように身につけておくこと。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 プレゼンテーションとは、PowerPoint の特長 第02回 PowerPoint の基本操作 第03回 デザインの原則、効果的なスライド 第04回 スライド作成演習 第05回 Excel の特長、オートフィル 第06回 相対参照と絶対参照、基本的な関数 第07回 応用的な関数 第08回 スライドのデザイン力と表計算の基礎力の確認および中間確認テスト 第09回 関数のネスト 第10回 条件付き書式 第11回 フィルター 第12回 セルの保護、基本的なグラフ 第13回 学術研究用のグラフ 第14回 応用的なグラフ、Word との連携 第15回 スライドデザインの修得状況と Excel を使った問題解決力の修得状況の確認および最終確認テスト、まとめ						
<b>【テキスト】</b> 「情報リテラシー改訂版」FOM出版						

【参考書・参考資料等】

【成績評価の方法等】

課題 (30%) 及び中間・最終確認テスト (70%)

【履修要件等】

情報リテラシー I の内容を修得していること。

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	若林 義啓			
授業科目	情報活用入門					授業形態
英 訳	Introduction to Application of Information					単独 クラス分け
配当年次	2年次	前期または後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b>						
現代の情報社会では誰もが様々な情報を容易に得ることができるようになったが、情報を作る側になることには消極的である。情報を活用するためには情報を作る側へ踏み出す必要がある。この授業では、普段の生活の中で使える情報技術を学び、応用的な活用へ発展させることで生活の中でのコンピューターの活用場面を拡大する。4つのコンテンツ制作を通して情報活用力を身につけることで、特定のソフトウェアに頼らず、大学の学修や生活の中でコンピューターを積極的に活用できるようになる。						
<b>【授業の到達目標】</b>						
1. デジタル画像の基本的な加工方法の修得 画像の明るさや色について高度な修正ができるようになる。レイヤーを使いこなし、画像の合成ができるようになる。						
2. デザインの原則と視線誘導を考慮したレイアウトの修得 ポスター制作を通して、伝えたい情報のレイアウト法を学び、デザインの原則と視線誘導で誘引力と説得力のある媒体を作成できるようになる。						
3. 知識と技術の融合、ソフトウェアの連携の修得 ここまで修得した知識や技術を工夫し、組み合わせることで新たなものを創造し、イメージできるようになる。イメージを実現するために使うことができるソフトウェアを組み合わせる工夫し、完成させることができるようになる。						
4. プレゼンテーション力の修得 デザインの原則と効果的なプレゼンテーションについて復習し、自分で制作したコンテンツを題材にすることで、短時間で効率よく聴衆に伝えることができるようになる。						
5. 問題解決力と自己改善力の修得 自己評価と相互評価の結果から問題の原因を分析して、次のコンテンツ制作に活用し、より良いものを制作することで、問題解決力と自己改善力を身につける。						
<b>【授業の概要】</b>						
授業では大きく4つのコンテンツ制作を行う。最初にフリーソフトを使った合成画像制作でデジタル画像の知識と加工技術を学ぶ。次にPowerPointとフリーフォントを使ったポスター制作でデザインの原則と視線誘導を考慮したレイアウトを学ぶ。3つ目にフリーソフトとPowerPointを使って缶バッジと時計制作を行い、知識と技術の融合とソフトウェアの連携を学ぶ。最後にPowerPointを使った制作物プレゼンテーションでプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション以外のすべてのコンテンツで品評会を開き相互評価と自己評価を行う。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b>						
授業内の演習時間では課題をクリアすることは出来ないので毎回授業時間外に課題制作を進めておくこと。						
<b>【授業計画】</b>						
第01回 デジタル画像の基礎						
第02回 グラフィックソフト① 画像修正						
第03回 グラフィックソフト② 合成画像の制作						
第04回 合成画像品評会、デジタルコンテンツ表現① ポスターとは、デザインの原則						
第05回 デジタルコンテンツ表現② ポスターのデザイン、フリーフォント						
第06回 デジタルコンテンツ表現③ ポスターの制作1 視線誘導						
第07回 デジタルコンテンツ表現④ ポスターの制作2 デザインの原則						
第08回 ポスター品評会、グラフィックソフト活用① 缶バッジ・時計のデザイン						
第09回 グラフィックソフト活用② 缶バッジ・時計の制作1 知識と技術の融合						
第10回 グラフィックソフト活用③ 缶バッジ・時計の制作2 ソフトウェアの連携						
第11回 缶バッジ・時計の組立、缶バッジ・時計品評会						
第12回 最終プレゼンテーション① プレゼンテーションとは、スライド制作1 スライドのデザイン						
第13回 最終プレゼンテーション② スライド制作2 スライドの制作						

第14回 最終プレゼンテーション③ スライド制作3 スライドの完成、リハーサル

第15回 最終プレゼンテーション④ 発表会、まとめ

【テキスト】

【参考書・参考資料等】

「情報リテラシー改訂版」FOM出版、情報リテラシーⅡのPowerPointのプリント教材

【成績評価の方法等】

課題 (70%) 最終プレゼンテーション (30%) の総合評価とする。

【履修要件等】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡを修得していること。

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	吉本 由美			
授業科目	日本語 I (a)					授業形態
英 訳	Japanese I (a)					単独 クラス分け
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 大学での生活、学修に必要な日本語の知識、運用能力を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> イベントなどに関する記事を読んで、理解できる、公的な立場の人のスピーチを聞いて、理解できる、など。						
<b>【授業の概要】</b> 日本語能力試験N1レベルの文法を整理し、使えるようにする。主に「読む」「聞く」練習をする。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 語彙の読み方、意味を予習する。文法の練習問題を解く。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 オリエンテーション 第02回 1 ニュースを読む 第03回 まとめ1 + JLPT 練習1 第04回 2 スピーチを聞く 第05回 まとめ2 + JLPT 練習2 第06回 3 昔話を読む 1 第07回 3 昔話を読む 2 第08回 まとめ3 + JLPT 練習3 第09回 4 実用書を読む 1 第10回 4 実用書を読む 2 第11回 まとめ4 + JLPT 練習4 第12回 5 ドラマのシナリオを読む 1 第13回 5 ドラマのシナリオを読む 2 第14回 5 ドラマのシナリオを読む 3 第15回 まとめ5 期末試験						
<b>【テキスト】</b> TRY! 日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語 (各国語版) ASK						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 語彙リスト (各国語版)						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題 (宿題) 30%、小テスト30%、期末試験40%						
<b>【履修要件等】</b> 外国人留学生のみ履修可能・必修科目						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	川崎 千枝見			
授業科目	日本語 I (b) (c) (d)					授業形態
英 訳	Japanese I (b) (c) (d)					単独 クラス分け
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 大学での生活、学修に必要な日本語の知識、運用能力を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> お知らせ、レポートや論説文の説明などが読んで理解できる。社会生活の場面での心構え、身近なニュースなどを聞いて理解できる。						
<b>【授業の概要】</b> 日本語能力試験N2レベルの文法を整理し、使えるようにする。N1レベルも視野に入れ、主に「読む」「聞く」練習をする。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 語彙の読み方、意味を予習する。文法の練習問題を解く。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 オリエンテーション 第02回 1 お知らせを読む 第03回 まとめ1 + JLPT 練習1 第04回 2 スピーチをする 1 第05回 2 スピーチをする 2 第06回 まとめ2 + JLPT 練習2 第07回 3 説明を聞く 第08回 4 ニュースを聞く 第09回 まとめ3 + JLPT 練習3 第10回 5 友達同士の会話 1 第11回 5 友達同士の会話 2 第12回 まとめ4 + JLPT 練習4 第13回 6 友達同士の会話 1 第14回 6 友達同士の会話 2 第15回 まとめ5 期末試験						
<b>【テキスト】</b> TRY! 日本語能力試験N2文法から伸ばす日本語 (各国語版) ASK						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 語彙リスト (各国語版)						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題 (宿題) 30%、小テスト30%、期末試験40%						
<b>【履修要件等】</b> 外国人留学生のみ履修可能・必修科目						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	吉本 由美			
授業科目	日本語Ⅱ (a)					授業形態
英 訳	Japanese Ⅱ (a)					単独 クラス分け
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 大学での生活、学修に必要な日本語の知識、運用能力を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> やや専門的な説明を聞いて、理解できる、論説文を読んで、理解できる、など。						
<b>【授業の概要】</b> 日本語能力試験N1レベルの文法を整理し、使えるようにする。主に「読む」「聞く」練習をする。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 語彙の読み方、意味を予習する。文法の練習問題を解く。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 オリエンテーション 第02回 6 スピーチをする 第03回 まとめ1 + JLPT 練習1 第04回 7 社内で話す 1 第05回 7 社内で話す 2 第06回 まとめ2 + JLPT 練習2 第07回 8 小説を読む 1 第08回 8 小説を読む 2 第09回 8 小説を読む 3 第10回 まとめ3 + JLPT 練習3 第11回 9 講演を聞く 第12回 まとめ4 + JLPT 練習4 第13回 10 論説文を読む 1-1 第14回 10 論説文を読む 1-2 第15回 まとめ5 期末試験						
<b>【テキスト】</b> TRY！日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語（各国語版）ASK						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 語彙リスト（各国語版）						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題（宿題）30%、小テスト30%、期末試験40%						
<b>【履修要件等】</b> 外国人留学生のみ履修可能・必修科目						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	川崎 千枝見			
授業科目	日本語Ⅱ (b) (c) (d)					授業形態
英 訳	Japanese II (b) (c) (d)					単独 クラス分け
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 大学での生活、学修に必要な日本語の知識、運用能力を身につける。						
<b>【授業の到達目標】</b> エッセーやインターネットの記事などを読んで、理解できる。ビジネス場面での簡単なあいさつや身近な話題についての会話などを聞いて理解できる。						
<b>【授業の概要】</b> 日本語能力試験N2レベルの文法を整理し、使えるようにする。N1レベルも視野に入れ、主に「読む」「聞く」練習をする。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 語彙の読み方、意味を予習する。文法の練習問題を解く。						
<b>【授業計画】</b> 第01回 オリエンテーション 第02回 7 論説文を読む 1 第03回 7 論説文を読む 2 第04回 まとめ1 + JLPT 練習1 第05回 8 ビジネス場面での会話 第06回 9 友達同士の会話 1 第07回 9 友達同士の会話 1 第08回 まとめ2 + JLPT 練習2 第09回 10 エッセーを読む 1 第10回 10 エッセーを読む 2 第11回 11 記事を読む 第12回 まとめ3 + JLPT 練習3 第13回 12 ビジネス場面の会話 1 第14回 12 ビジネス場面の会話 2 第15回 まとめ4 期末試験						
<b>【テキスト】</b> TRY! 日本語能力試験N2文法から伸ばす日本語 (各国語版) ASK						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 語彙リスト (各国語版)						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題 (宿題) 30%、小テスト30%、期末試験40%						
<b>【履修要件等】</b> 外国人留学生のみ履修可能・必修科目						



区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	川崎 千枝見、吉本 由美			
授業科目	日本事情 I					授業形態
英 訳	Japanese studies I					単独 クラス分け
配当年次	1年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 大学での学修・研究活動に必要な日本語表現、言語スキルの習得を目指す。特に、情報収集（読解活動、アンケート活動）と情報発信（レジュメ作成、口頭発表）に関するスキル習得・上達を目指す。						
<b>【授業の到達目標】</b> ・ニュースやアンケートなどを通して、日本社会についての知識を深める ・適切な表現を使って、わかりやすい発表ができる						
<b>【授業の概要】</b> ・現代の日本社会について、情報を収集する「読む」「聞く」活動を行なう ・自国や自身の文化との比較を通して、自身の考えを日本語で発信する「書く」「話す」活動を行なう						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ・授業時間内に課題が終わらない場合は、時間外に作業し、提出する						
<b>【授業計画】</b> 第01回 オリエンテーション 第02回 情報収集①-1 第03回 情報収集①-2 第04回 情報まとめ①-1 第05回 情報まとめ①-2 第06回 発表準備① 第07回 発表① 第08回 発表①ふりかえり 第09回 情報収集②準備 第10回 情報収集②アンケート 第11回 情報まとめ② 第12回 発表準備②-1 第13回 発表準備②-2 第14回 発表② 第15回 発表②ふりかえり						
<b>【テキスト】</b> なし（資料配布）						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業中に紹介する webサイト：NEWS WEB EASY ( <a href="http://www3.nhk.or.jp/news/easy/">http://www3.nhk.or.jp/news/easy/</a> )						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題提出（40%）、平常点(20%)、発表(40%)で評価する						
<b>【履修要件等】</b> 外国人留学生のみ履修可能・必修科目						

区 分	高城科目－基礎教育科目	担当教員	川崎 千枝見、吉本 由美			
授業科目	日本事情Ⅱ					授業形態
英 訳	Japanese studies Ⅱ					単独 クラス分け
配当年次	1年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
<b>【授業の目的】</b> 大学での学修・研究活動に必要な日本語表現、言語スキルの習得を目指す。特に、情報収集（読解活動、インタビュー活動）と情報発信（レジュメ作成、口頭発表）に関するスキル習得・上達を目指す。						
<b>【授業の到達目標】</b> ・ニュースやインタビューなどを通して、日本社会についての知識を深める ・適切な表現を使って、わかりやすい発表ができる						
<b>【授業の概要】</b> ・前期に続き、現代の日本社会について、情報を収集する「読む」「聞く」活動を行なう ・自国や自身の文化との比較を通して、自身の考えを日本語で発信する「書く」「話す」活動を行なう						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ・授業時間内に課題が終わらない場合は、時間外に作業し、提出する						
<b>【授業計画】</b> 第01回 オリエンテーション 第02回 調査準備1 第03回 調査準備2 第04回 調査実施 第05回 調査まとめ1 第06回 調査まとめ2 第07回 発表準備 第08回 発表 第09回 発表ふりかえり 第10回 追加調査準備 第11回 追加調査実施 第12回 調査まとめ 第13回 発表準備 第14回 最終発表 第15回 最終発表ふりかえり						
<b>【テキスト】</b> なし（資料配布）						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業中に紹介する webサイト：NEWS WEB EASY ( <a href="http://www3.nhk.or.jp/news/easy/">http://www3.nhk.or.jp/news/easy/</a> )						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題提出(40%)、平常点(20%)、発表(40%)で評価する						
<b>【履修要件等】</b> 外国人留学生のみ履修可能・必修科目						